5 月 24 日　小手指周辺の石橋供養塔と澤田泉山の遺跡を訪ねる

小手指駅南口（9:00 集合）－砂川堀調整池－誓詞橋－不動橋－埋蔵文化財調査センター（トイレ）－石橋供養塔－東川川縁散歩－昼食（まるい）－大舘神社－御手洗井－北野天神－バスで小手指駅南口へ

１．砂川堀調整池脇の石橋供養塔

寛政８年（1796）　馬頭観音坐像と石橋供養塔の文字

武州入間郡北野村念仏講中

石橋供養塔とは、「常に人に踏まれている石橋を供養する意味と、石橋を渡って村内に疫病や災いが入り込むのを防ぐ意味がある」とされていますが、石橋の永続を願い、多額の費用を掛けて橋を建設した記念碑の意味合いが最も強いのではないかと思っています。

石橋供養塔も庚申塔と同様に道の股に立てられている事が多く、道標を兼ねている場合も多いです。そして、石橋を建てた、講や出資者の名前が彫られています。

２．誓詞橋（せいじがはし）

小手指ヶ原の合戦に際して、義貞が誓詞を取った（将兵に忠誠を誓わせた）所と言われている。

1700 年頃の地図には清地と記されており、この下に水たまりのあるうちは雨がふらないと言われていた。

明治 20 年に立てられた誓詞橋と書かれた石橋供養塔、

天明 6 年（1786 年）に建てられた百番供養塔がある。

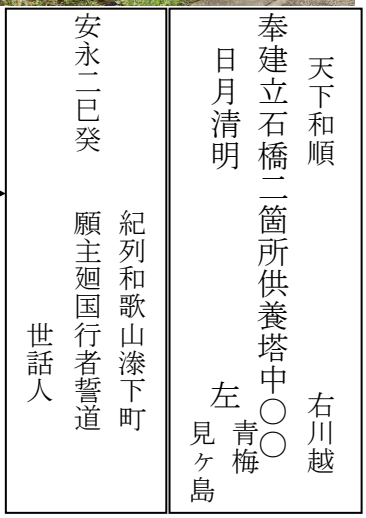
西国、坂東、秩父　百番供養塔

天明六年　四国八十八ケ所、圓光大師二十五ケ所

武州入間郡北野村

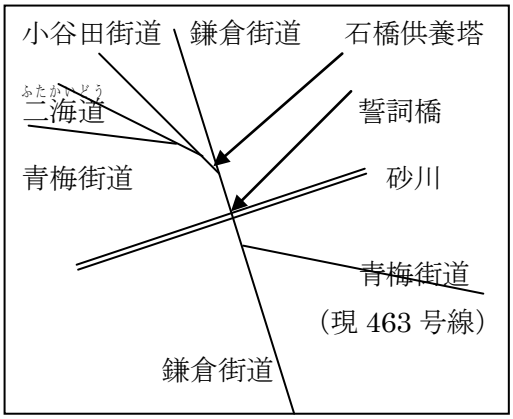
台座には同行した人々の名前がある。

３．石橋二箇所供養塔



この供養塔は安永 2 年（1773 年）に建てられたもので、この近くにあり廃寺となった清水寺で亡くなった廻国行者が願主です。

また、この場所は**多くの道が集まる場所**で道標を兼ねている。（二箇所とは誓詞橋の他にも石橋があったのでしょうか）



４．不動橋石橋供養塔

この石橋供養塔は側面に、壊橋と言われていた橋を石橋にして不動橋としたという謂れが書いてあり興味深いです。

文化 5 年（1808 年）

表面は　不動明王坐像と石橋供養塔の文字

５．埋蔵文化財調査センター（トイレ休憩他）

埋蔵文化財及び関連資料の収集・保存・公開をしているが、天然記念物である「ミヤコタナゴ」の保護のため飼育もしている。

６．白旗塚

新田義貞が小手指ヶ原の合戦で本陣を置き、源氏の白旗を立てた所との伝説がある。ここは古墳であったと考えられているが、浅間神社があるところから一説には江戸時代に富士講の人によって作られたとも言われている。

７．小手指ヶ原古戦場跡の碑

久米川からの幕府軍と入間川からの新田軍が小手指ヶ原で戦った。実際はどの辺かは分からない。この後、中先代の乱、武蔵野合戦でも小手指ヶ原で戦があった。（別紙　新田氏と所沢周辺の戦い　参照）

８．石橋供養塔（寛延砂嘉久）

寛延３年（1750）小暮勘左エ門が寄付した石橋で、石橋供養塔で一番古い橋です。明治に改修された時に故人の遺徳を偲び澤田泉山の筆による供養塔が建てられました。　（マップこてかつより）

砂の字は「石を踏んで水を渡る」という意味、即ち石橋を意味します。

（澤田泉山は寺子屋北広堂を開き教育にあたった人

詳細は 14．北野天神の項を参照）

なお、ここまでの途中に樹高が 35m と所沢で一番（昭和 63 年の環境省の調査データによる）のケヤキが見える。

９．石橋供養塔（宮後）

天明７年（1787）　みぎ：かハごへみち　　ひだり：はんのうみち

寄付金が書かれており、約２両で建てられたものと思われる。

（合計：6 分、2 朱、500 文＝1 両 3 分＝1.75 両

下女の１年分、大工の１ヶ月分、かけそば 500 杯）

１両＝4 分、1 分＝4 朱、1000 文＝1 分

10．石橋供養塔（東川の川縁）

天保７年（1836）　天下泰平　國土安全　石橋供養塔

寄付　200 疋、６朱⇒3 分 2 朱（200 疋⇒2000 文⇒2 分）

施主：大舘清右衛門

江戸後期に名主となり、その後花井氏の地代官（名主出身の代官）にもなり、苗字帯刀槍一筋御免となった。

……Wikipedia より

11．馬頭観音（北野郵便局前）

摩耗して　施主　大舘喜平次　以外は殆ど読めない。

12. 大舘神社

うどん屋「まるい」の裏にあるこの神社は、鎌倉攻めで活躍した大舘宗氏以来、大舘氏が小手指に住むようになった歴史が書かれている。大舘神社の説明によると小手指の大舘氏の由来は下記の通り

新田政義ー政氏ー基氏ー朝氏ー義貞
　　└大舘家氏　……　ー宗氏（鎌倉攻め、極楽寺坂で討死）
　　六男　義隆（所沢大舘氏の祖：小手指ヶ原の戦いで討死）
　　長男　義信（武蔵野合戦を戦う）
　　孫　義継（義右衛門義継と百姓名に改め以来約 30 代続く）

なお、Wikipedia に書かれている武蔵国の大舘氏　によると「大舘氏は北条氏被官の配下で、北条氏敗北後、家康の関東入部後に帰農したとされる。また大舘義隆・義信なる人物は史料上に見えず、地代官任命時に創作された可能性が高く、信憑性に問題があるとされる。（所沢市史編さん関係資料群）」とある。詳細は Wikipedia の武蔵国の大舘氏参照。家紋の大中黒は新田氏と同じ。

新田義貞にまつわる伝説は所沢に多くあるが、江戸時代に作られたものであるので新田宗氏の子孫とする大舘氏が広めたのではないだろうか。

13. 御手洗井

東日本各地に多く見られることだが、所沢にも日本武尊の東征伝説がある。戦勝を祈願したといわれる神社（所澤神明社や北野天神社の由来）や、あるいは籠手（こて）をかざした（地名・小手指の由来）と言った伝承がある。この伝承にちなんで作られた日本武尊が手を洗った井戸と思われる。石碑に明治 28 年とあるのでその時に作られた井戸だろう。御手洗井は各地にあるが、所沢の御手洗井について記述しているものはインターネット上では見つけられなかった。

14. 北野天神

式内社＊1で社伝によれば日本武尊（やまとたけるのみこと）の東征の折この地に饒速日（にぎはやひ）神・八千矛（やちほこ）神（**大国主神**）＊2 の二神をまつり、物部（もののべ）天神、国渭地祇（くにいちぎ）神を合祀した神社で、入間郡五座の一に数えられていた由緒ある神社である。

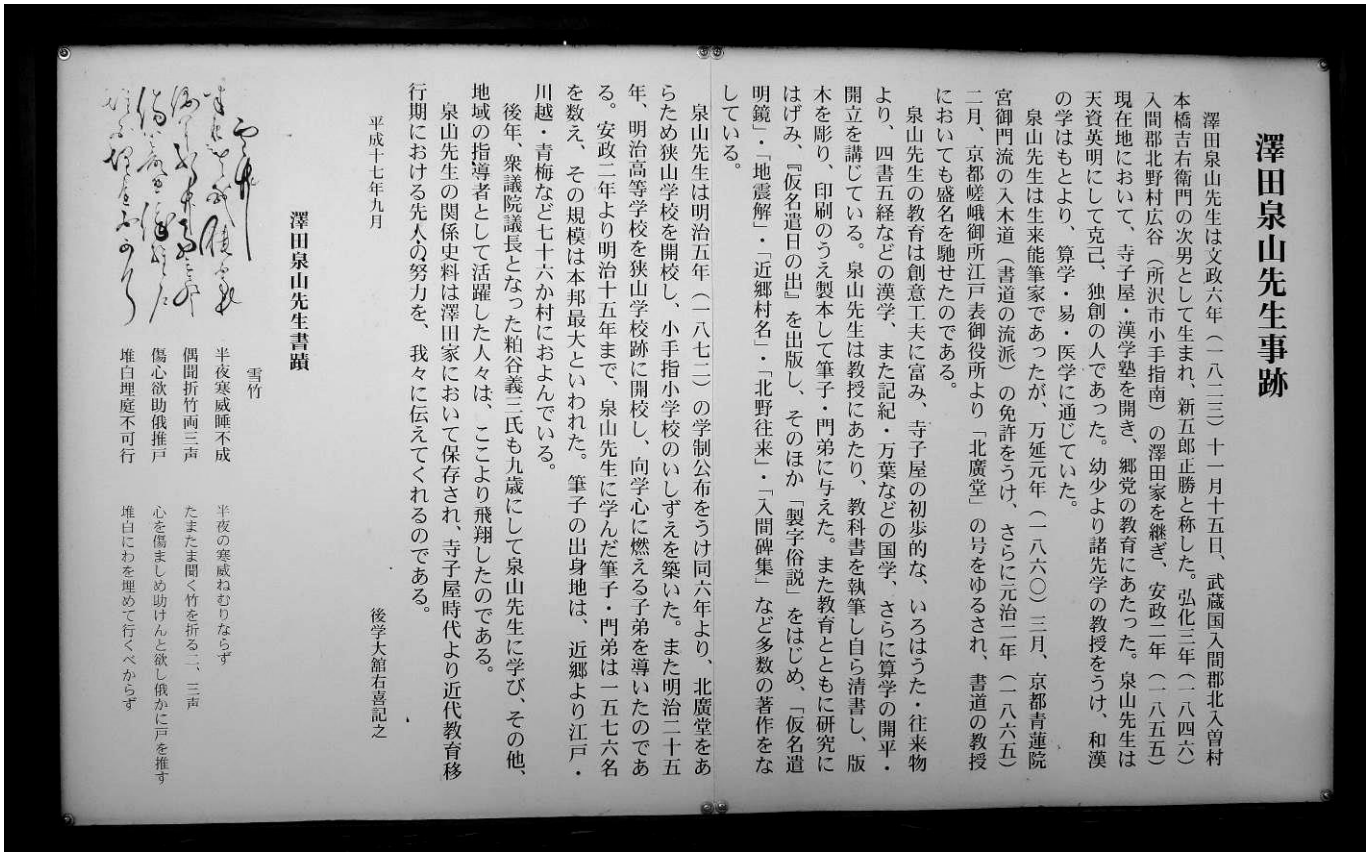
その後 995 年菅原道真の五世の孫・修成が武蔵守となって武蔵国に下向し**京都の北野天満宮を祀った**ので、以後北野天神と称されるようになった。武家の信仰も篤く、源義家・頼朝、足利尊氏、前田利家等によりしばしば社殿が造営された。現在の本殿は安永年間（1770 年代）の建築である。北野にあるから北野天満宮ではなく、北野天満宮があるので北野という地名になったもの。

境内には、航空神社、宗良親王（新田義貞の遺児義興・義宗とともに足利幕府と戦った。最後の合戦となった峠で笛を吹いたところから笛吹峠となった。）の歌碑（別紙　新田氏と所沢周辺の戦い参照）、力石、前田利家手植えの「大納言梅」、埼玉県指定文化財の「北野天神縁起絵巻」、澤田泉山＊3 の碑等がある。

＊１：式内社（延喜式内社）とは延喜式に載っている神社のこと。延喜式は、平安時代中期（927 年）に編纂された律令の施行細則で、その中に当時「官社」とされていた全国の神社一覧がある。したがって、式内社ということは平安時代からあった古社ということになる。
所沢市の式内社は物部天神社、國渭地祇神社、中氷川神社の 3 社。

＊２：大国主命は多くの別名を持っている。八千矛神は武神としての性格、大己貴（おおなむち）命は若い頃の名、大國魂大神は国を作った神、その他色々ある。（Wikipedia より）

＊３：澤田泉山
寺子屋「北広堂」を経営していた幕末～明治初年の教育者である。
北野天神には「泉山翁碑」がある。その事蹟が彫られているが漢文で、引き写しても解読が困難なため澤田家の門前にある説明板（大舘右記先生の書かれたもの）を参照下さい。



澤田泉山先生事跡

澤田泉山先生は文政六年（一八二三）十一月十五日、武蔵国入間郡北入曽村本橋吉右衛門の次男として生まれ、新五郎正勝と称した。弘化三年（一八四六）入間郡北野村広谷（所沢市小手指南）の澤田家を継ぎ、安政二年（一八五五）現在地において、寺子屋・漢学塾を開き、郷党の教育にあたった。泉山先生は天資英明にして克己、独創の人であった。幼少より諸先学の教授をうけ、和漢の学はもとより、算学・易・医学に通じていた。

泉山先生は生来能筆家であったが、万延元年（一八六〇）三月、京都青蓮院宮御門流の入木道（書道の流派）の免許をうけ、さらに元治二年（一八六五）二月、京都嵯峨御所江戸表御役所より「北廣堂」の号をゆるされ、書道の教授においても盛名を馳せたのである。

泉山先生の教育は創意工夫に富み、寺子屋の初歩的な、いろはうた・往来物より、四書五経などの漢学、また記紀・万葉などの国学、さらに算学の開平・開立を講じている。泉山先生は教授にあたり、教科書を執筆し自ら清書し、版木を彫り、印刷のうえ製本して筆子・門弟に与えた。また教育とともに研究にはげみ、『仮名遣日の出』を出版し、そのほか「製字俗説」をはじめ、「仮名遣明鏡」・「地震解」・「近郷村名」・「北野往来」・「入間碑集」など多数の著作をなしている。

泉山先生は明治五年（一八七二）の学制公布をうけ同六年より、北廣堂をあらため狭山学校を開校し、小手指小学校のいしずえを築いた。また明治二十五年、明治高等学校を狭山学校跡に開校し、向学心に燃える子弟を導いたのである。安政二年より明治十五年まで、泉山先生に学んだ筆子・門弟は一五七六名を数え、その規模は本邦最大といわれた。筆子の出身地は、近郷より江戸・川越・青梅など七十六か村におよんでいる。

後年、衆議院議長となった粕谷義三氏も九歳にして泉山先生に学び、その他、地域の指導者として活躍した人々は、ここより飛翔したのである。

泉山先生の関係史料は澤田家において保存され、寺子屋時代より近代教育移行期における先人の努力を、我々に伝えてくれるのである。

平成十七年九月　　後学大舘右喜記之

澤田泉山先生書蹟

雪竹

半夜寒威睡不成　半夜の寒威ねむりならず
偶聞折竹両三声　たまたま聞く竹を折る二、三声
傷心欲助俄推戸　心を傷ましめ助けんと欲し俄かに戸を推す
堆白埋庭不可行　堆白にわを埋めて行くべからず

この写真は小手指南３丁目のさくら通りの脇の沢田倉庫の裏にある沢田家の門前にあった説明板を撮影したもの。

・**左卜全碑**

「常道の芸では　先が知れてる　されば　逆　遠き苦難の　道を求めん」

本名三ヶ島一郎、北野で小学校校長の次男として生まれる。昭和 46 年没　歌人の三ヶ島葭子は異母姉、墓は金仙寺の裏の三ヶ島墓苑（神道の墓所、日歌輪翁の墓もここに）にある。

三ヶ島家は代々中氷川神社の神官であるが、祖父が分家したもの。

・**宗良親王於小手指原歌碑**（別紙　新田氏と所沢周辺の戦い参照）

「君が為世のため何かをしからむ　すゝてかひある命なりせば」

・**航空神社跡**

航空神社とは、陸軍所沢飛行学校内に造営された神社。敗戦後に北野天神社境内へ移設された。

・**北野天神縁起**：埼玉県指定文化財（所沢市ホームページより　抜粋）

北野天神社縁起　第七軸

「北野天神社縁起」は、室町時代初期に作られた絹本極彩色の掛幅です。掛幅は絵巻物と違って同時に複数の人が見られる形式です。全 7 幅あり、各幅は 4 段に分割されており、下から上へと物語が進行します。各面に祭神である菅原道真の生涯と死後の霊験譚を描いています。今は埼玉県立歴史と民俗の博物館にある。

・その他　力石、北野地名由来之碑　等多くの石造物がある。

15. その他（今回行かないがご参考：マップ参照）

(1)小手指小学校の大イチョウ

(2)石橋供養塔

(3)澤田泉山の墓

(4)澤田家（ケヤキ、泉山の事蹟の説明板）

(5)無量寺：旗本　花井庄右衛門の墓がある

ちょっと前まであった
北野中スカイツリー

小手指行きバス時刻表

小手指小学校前	北野天神前
12:02	12:12、12:25、12:40、12:57
13:02	13:15、13:37、13:57
14:18	14:21、14:40
	15:03、15:22、15:40

新田氏と所沢周辺の戦い

所沢から武蔵国府までは鎌倉時代以前からの道があったが、鎌倉時代以降に鎌倉へと道がつながって行った。この道はいざ鎌倉の時に鎌倉に向かう道であると同時に、鎌倉方との戦いの場所にもなっていた。ここ所沢には新田氏に関する伝承が多く残っているため、その舞台となった歴史をまとめた。

◎鎌倉幕府が倒れるまで

元寇前後から北条氏は専制の色を強め、幕政から疎外された御家人たちは不満を募らせていた。

1324 年(正中元年) 正中の変：後醍醐天皇は鎌倉幕府転覆を謀ったが失敗した。

1331 年(元弘元年)：後醍醐天皇は再び倒幕を企て挙兵、楠木正成らも挙兵したが、失敗し隠岐島に配流され皇位には持明院統の光厳天皇を立てる。

1333 年(元弘 3 年)：後醍醐天皇が隠岐を脱出して鎌倉幕府追討の号令を発した。幕府は鎮圧のため足利高氏（後に尊氏）を主将とした軍を京都へ派遣するが、高氏は幕府に叛旗を翻し六波羅探題を攻め落とし京都を制圧した。一方、新田義貞が鎌倉に進軍する。

5 月 8 日　新田義貞は新田郡で 150 騎にて旗挙げ。

5 月 10 日　新田義貞が入間川の北岸に到着。各地で軍勢が加わり大軍(太平記では 20 万)となった。

5 月 11 日　**小手指ヶ原の戦い**　入間川を防衛線とすべく久米川から鎌倉街道を北進する北条方と小手指ヶ原にて激突。勝敗決せず、新田方は入間川に北条方は久米川に退いた。

《新田義貞にまつわる伝説》

誓詞橋（せいじがはし）：　小手指ヶ原の合戦に際して、義貞が誓詞を取った（将兵に忠誠を誓わせた）所

白旗塚：　義貞が小手指ヶ原の合戦で本陣を置き、源氏の白旗を立てた所。ここは古墳であったと考えられているが、浅間神社があるところから一説には江戸時代に富士講の人によって作られたとも言われている。

伝新田義貞願文、誓いの桜：山口観音に山口観音の前で先勝を祈願したときの願文がある

椿峰　：八国山に向かう途中に今の椿峰のあたりで一休みし、昼食をとるときに椿の枝を折って箸代わりにし、それを地面に刺して出発した。それがそだち育ち椿峰となった。

新田橋：鎌倉街道が不老川を越える所(下藤沢)にある橋。入間川から小手指への新田義貞の進軍路？（Web 上に新田橋に関する記述なし）

5 月 12 日　**久米川の戦い**　新田方は久米川の陣を攻撃、北条方は破れて分倍河原に退いた。

兜掛の松：　鳩峯神社で戦勝祈願した義貞がその時に兜を掛けた松（記念碑）

勢揃橋：　新田義貞が鎌倉攻めの時に義貞の軍をここで勢揃いさせたと伝えられる橋

将軍塚：　久米川の戦いに勝った義貞が白旗を立てた所

元弘の板碑：　戦死した新田方の武将を供養するため長久寺を開いた玖阿（くあ）上人が立てたもの。将軍塚にあったものだが移され、徳蔵寺　板碑保存館にある。

5 月 15 日　**分倍河原の戦い**　新田方は、一旦は破れて堀兼まで退く

5 月 16 日　陣を立て直し、再び**分倍河原**で戦い新田方が勝利し、一気に鎌倉へ。

5 月 18~21 日　極楽寺坂（稲村ヶ崎：義貞が剣を投じた）、巨福呂坂（こぶくろざか）、化粧坂（けわいざか）に。

極楽寺坂の大将大舘（おおだち）宗氏*1 が戦死。

5 月 22 日　**鎌倉幕府を落とす。**

＊１：新田氏の一族で本拠は太田市。埼玉県西南部には宗氏の子孫と伝えられる大舘氏があり、家康の関東入部後に帰農したといわれる。新田義貞の伝説の多くは江戸時代になって始まった物が多いのは大舘氏が広めたから？

◎中先代の乱：1335 年

後醍醐天皇による建武の新政は武士の間に不満が発生。そんな折、先代の北条高時の子時行が信濃で挙兵し、女影(おなかげ)原、**小手指ヶ原**等で尊氏の弟忠義と戦った。

（小手指ヶ原でも戦ったが新田氏の戦いでないため、伝説が残っていないのか）

◎南北朝の内乱

中先代の乱で鎌倉に下った尊氏はそのまま鎌倉に留まり武家政権の樹立を目指す。

後醍醐天皇は新田義貞を大将とし征東軍を送ったが新田軍は敗れた。尊氏は京に上り後醍醐天皇方との戦いが続き、尊氏は一旦破れて九州に逃れたが、1336 年尊氏が勝ち建武の新政は終わり、後醍醐天皇は吉野へ行き南朝をおこし内乱が続く。戦乱の中で新田義貞は死んだ。

◎観応の擾乱と武蔵野合戦：1352 年

幕府内の尊氏と弟直義が対立し、戦いにまで発展して各地の反足利勢力が活動を活発にする。

閏 2 月 15 日：新田義貞の遺児**新田義興・新田義宗**は、鎌倉奪還を目指し北畠親房と呼応して、上野国で挙兵した。また征夷大将軍に任じられた**宗良親王**も信濃国で挙兵した。

閏 2 月 18 日：鎌倉街道を南下した義興ら南朝勢は武蔵国狩野川で対陣し、一旦は鎌倉を占領した。

閏 2 月 20 日：金井原（小金井市）および人見原（府中市）にて足利勢と戦い。双方とも相当の損害を出し、尊氏は石浜（東京都台東区 or 福生市牛浜）に撤退し、勢力の回復を図る。新田義宗は笛吹峠（埼玉県嵐山町）に陣を敷き、宗良親王ら信濃勢や、直義派であった上杉憲顕と合流した。

閏 2 月 28 日：足利勢と新田義宗勢は、小手指ヶ原、入間河原、高麗原で合戦となったが、足利勢が勝利した。新田義宗は越後方面、宗良親王は信濃方面に落ち延びた。新田義宗はその後沼田市で戦死したとも言われている。

北野神社には宗良親王の歌碑が立てられている。

武蔵国へうち越えて　小手指原と言う所におりいて手分け等し侍しに、勇み有るべきよし
兵(つわもの)　共召し仰せ侍し次(ついで)に　思い続け侍し　（漢字混じり文にした　山本）

君のため世のためなにかおしからん　すててかいあるいのちなりせば

新田義宗については、薬王寺では次のように伝えられている

戦いに敗れた義宗は軍を群馬県に帰らせ、自らは越後へ落ちて行ったと言いふらさせ、所沢にて再起を待ったが、南北朝も統一され戦乱も納まった。義宗は髪を落として隠れ家をお堂にし、自ら彫った薬師如来を本尊として一族、家臣を弔いながら 1412 年所沢でなくなった。

薬王寺境内には義宗の墓と新田義宗終焉の地の碑がある。

箙(えびら)の梅　足利方の饗庭命鶴丸(あえばのみょうつるまる)率いる一軍が付近に咲く梅の花を折り取って箙に挿した。（太平記）
東川上流に観光協会が建てた説明板と記念の木碑がある。昭和初期に東川沿いに 30 本の梅の木があった。